

住居の半屋外空間に関する基礎的研究

A Fundamental Study on the
Semi-outdoor Space of a House

村 田 明 久*

MURATA Akihisa

This study was conducted on the basis of a dwelling house fact-finding survey in Nagasaki with special attention to the things which constitute semi-outdoor space of a house. The results are reported here as follows:

- 1) As to the things which constitute semi-outdoor space and assumed to be important, there were the veranda, window handrail, and porch by the dwelling house outside the circumference. There were also a garden tree, a flower bed, drying clothes in the garden site, and there were blocks, posts, and fencing on the border line of lot.
- 2) In the spatial structure of the dwelling house outside circumference, the veranda increased it in a southern aspect, and there was much window handrail to rooms to the north. There were many garden plants /bonsai near a room to the north. In this way, semi-outdoor space received influence by being open to the south or north greatly.
- 3) The difference between a house of modern times with veranda and a traditional house with window handrail is reflected in the semi-outdoor space and constitutes the estatescape.

1. はじめに

人々は「ゆとり」や「憩い」、「くつろぎ」といった「快適な空間」を住生活の中に求めている。そうした空間の一つに「半屋外空間」が考えられる。

住宅周りにはテラス、ベランダ等の「半屋外空間」が存在し、室内と屋外の中間的な空間にあたり、私達の住生活において重要な役割を果たしている。古い日本家屋に見られる庇のある縁側は、そこに居れば天候に左右されることなく、外の空気が音、香りを肌で感じることができる。また、

ヨーロッパ住宅のパティオ（中庭、コート）も居間であると同時に食堂であったり、子供の遊び場であったりする。このような「半屋外空間」をつくることで、住まいにゆとりを与えることができる。

この半屋外空間が、今日の様々な住居においてどのような現状にあり、どのように利用されて生活空間の一部になっているかは、今後の半屋外空間のあるべき姿や住生活の姿を考える上で参考とすべきことが多いと考え、本研究の目的とした。

* 工学部 建築学科 教授
2003年12月2日受付

2. 調査の方法

調査場所は、新・旧、平地・斜面、和風・洋風、木造・RC造、民間・公共など様々な住宅を取り混ぜて地区をアトランダムに決めた。建築種類においても全種類（一戸建住宅、市営（県営、給与）連続住宅、市営（県営、給与）共同住宅、洋館戸建、町家、長屋、アパート、マンション）について、データを取るため調整して調査物件を選んだ。調査総数289件で、建築種類の内容と調査地区は以下の通りである。

- ・一戸建住宅（庭付き戸建92戸、庭無し戸建26戸）
かき道、三原町、大手町、立山町、御船蔵町、天神町、平和町、平野町、丸山町、中小島町、平戸小屋町、大鳥町、上田町、出雲町、中新町、相生町、稲田町、十人町、館内町、桜馬場町、夫婦川町、本河内町

- ・市営住宅（市営連続2戸、市営共同20戸）
三芳町、若葉町、錦町、清水町、西町、宿町
- ・県営住宅（県営連続20戸、県営共同21戸）
大橋町、平野町、白鳥町、城山町
- ・給与住宅（給与連続12戸、給与共同21戸）
三芳町、江里町、城栄町、富士見町、岩見町、宝栄町、城山町、梁川町、柳谷町
- ・洋館戸建（11戸）
南山手町、大浦町、東山町
- ・町家（20戸）
八幡町、麴屋町、諏訪町、伊良林
- ・長屋（23戸）
東山町、中小島町
- ・アパート（20戸）
御船蔵町、天神町、平野町、立山町、清水町、西町、白鳥町、宿町
- ・マンション（21戸）
御船蔵町、天神町、平野町、家野町、住吉町、千歳町、昭和町、大橋町、若葉町、立山町

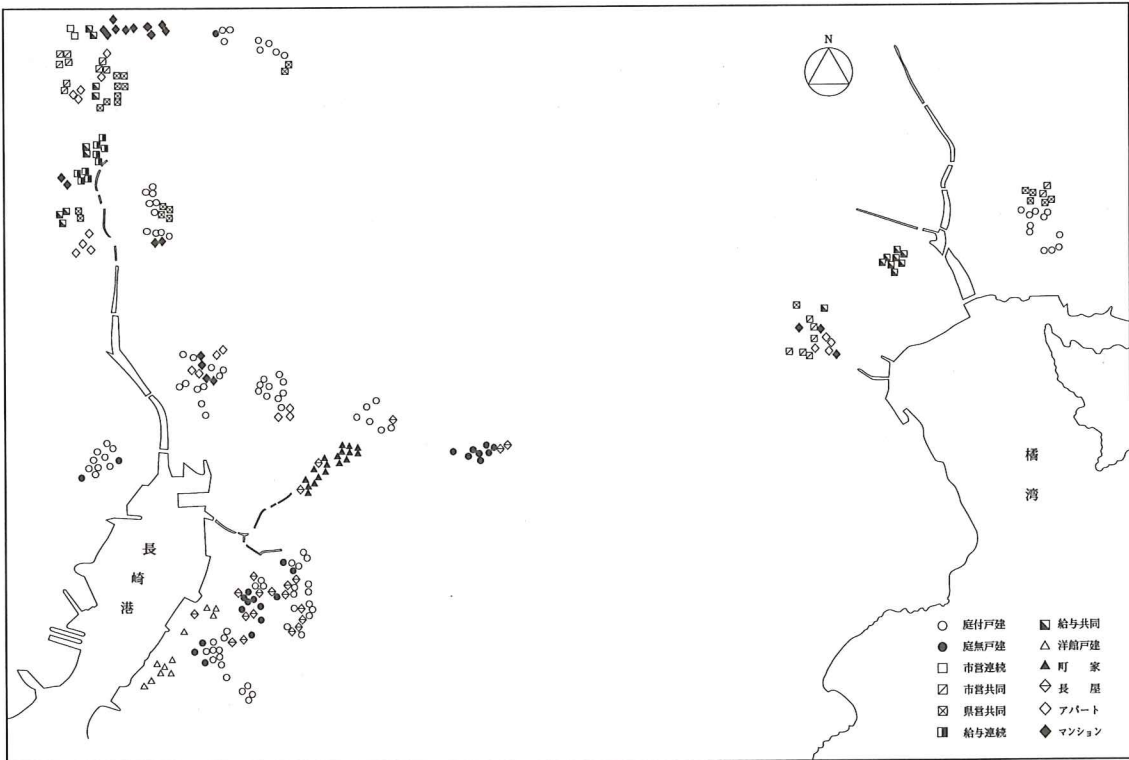


図1 半屋外空間の調査地点（1992年10月27日～12月18日調査）

3. 半屋外空間を構成するものの定義

半屋外空間に関係する場として住宅外回りから敷地境界までの空間を次の3つに分けて分析を行った。

住宅本体の外周部分にあたるものを第1類とした。例えば、ベランダ、バルコニー、テラス、出窓、窓手摺、花台等がある。次に、住宅外回りから庭を含む敷地全体にあたるものを第2類とした。例えば、アプローチ、ガレージ、カーポート、物置、物干し等がある。ここでは、カーポートは屋根が付いている車庫とし、ガレージは屋根のないものとした。また、敷地と道路との境界部分にあたるものを第3類とし、例えば、門柱、門扉、フェンス、ブロック等がある。

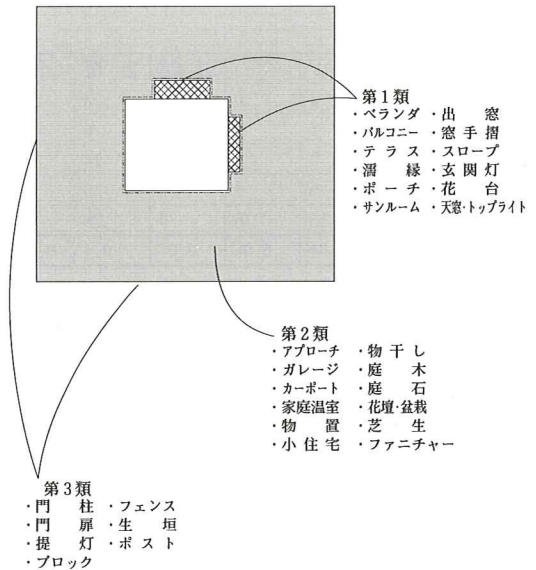


図2 半屋外空間の概念図

(1) 半屋外空間第1類の概要

第1類 調査数

	ベランダ	バルコニー	テラス	濡縁	ポーチ	サンルーム	出窓	窓手摺	スロープ	玄関灯	花台	天窓	その他	合計
北面	5	2	4	0	24	1	2	52	52	7	0	0	0	149
東面	14	1	3	0	21	2	3	14	6	2	2	0	0	68
南面	209	0	11	2	27	0	5	39	3	1	2	2	1	302
西面	10	0	5	2	20	0	5	7	8	4	1	0	0	62
合計	238	3	23	4	92	3	15	112	69	14	5	2	1	581
÷289	0.8	0.01	0.08	0.01	0.3	0.01	0.05	0.4	0.2	0.05	0.02	0.007	0.003	2.0

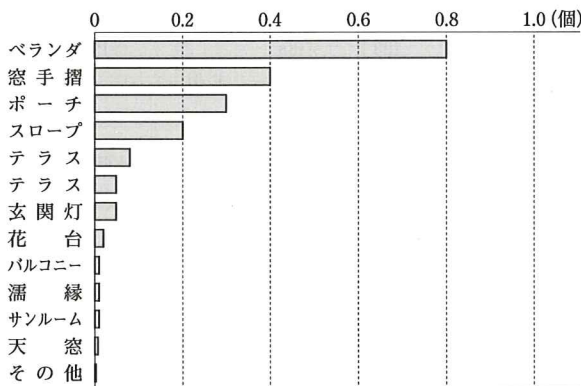


図3 第1類の調査数と一戸当たりの個数

調査結果をみると、第1類のものを1戸当りに換算すると、「ベランダ」は0.8個と一番多く、次に「窓手摺」が0.4個、「ポーチ」が0.3個の順で、一番少ない「天窓・トップライト」は0.007個となっている。

(2) 半屋外空間第2類の概要

第2類 調査数

	アプローチ	ガレージ	カーポート	家庭温室	物置	小住宅	物干し	庭木	庭石	花壇盆栽	芝生	ファニチャー	その他	合計
北面	0	4	0	0	3	0	6	54	2	31	13	0	1	114
東面	1	2	4	1	6	0	17	69	0	50	18	2	0	170
南面	2	2	8	2	14	1	98	78	0	68	21	4	0	298
西面	0	5	4	0	5	0	15	70	2	37	16	1	10	165
合計	3	13	16	3	28	1	136	271	4	186	68	7	11	747
÷289	0.01	0.04	0.06	0.01	0.1	0.003	0.5	1.0	0.01	0.6	0.2	0.02	0.04	2.6

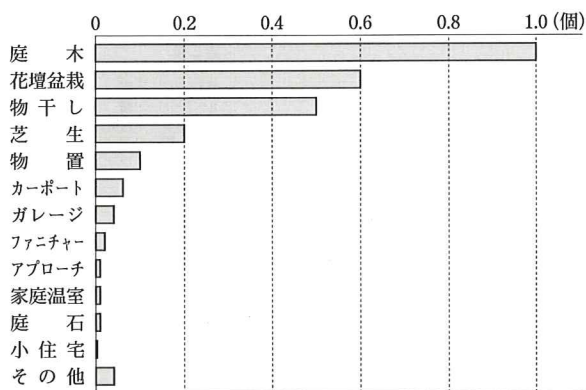


図4 第2類の調査数と一戸当りの個数

第2類では、「庭木」が1.0個、「花壇・盆栽」が0.6個、「物干し」が0.5個となっている。0.04個である「その他」は、バケツや掃除道具等である。

(3) 半屋外空間第3類の概要

第3類 調査数

	門柱	門扉	提灯	ブロック	フェンス	生垣	ポスト	その他	合計
北面	22	14	1	76	33	31	100	1	278
東面	14	10	0	82	34	32	19	0	191
南面	28	24	1	75	41	32	46	1	248
西面	21	10	0	82	32	33	23	1	202
合計	85	58	2	315	140	128	188	3	919
÷289	0.3	0.2	0.007	1.1	0.5	0.4	0.7	0.01	3.2

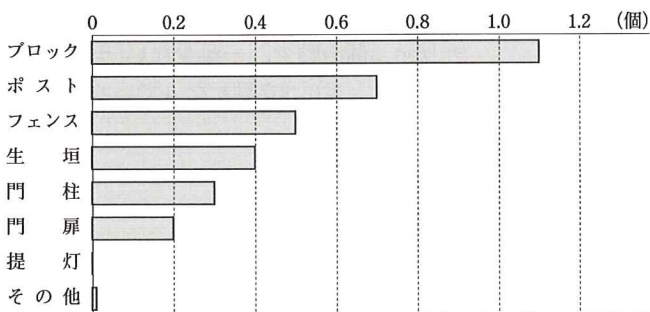


図5 第3類の調査数と一戸当りの個数

第3類では、「提灯」以外は0.2個以上となっている。「ブロック」が1.1個と多く、次に「ポスト」の0.7個、「フェンス」の0.5個の順となっている。

4. 半屋外空間の特性

(1) 半屋外空間の種類

半屋外空間を構成するものとして、ベランダ、バルコニー、テラス、濡縁、サンルーム、出窓、窓手摺、その他（フェンス、屋根等）があった。その中では、「ベランダ」が全体の59.2%と過半数を占めて、存在意義としては第一に高いことがうかがえる。次いで、「窓手摺」の28.0%、「テラス」の5.7%となっている。

和風建築の町家と長屋以外はどの住居でもベランダを設置している。「ベランダ」のある割合は、「アパート」と「マンション」は100%、「戸建住居」でも、「庭無し」が96.4%、「庭付き」が72.4%と

差がある。「給与共同」が77.8%であるが、「市営連続」、「市営共同」、「県営共同」、「給与連続」は50.0%ぐらい、「洋館戸建」は11.1%と少なくなっている。ベランダは建ぺい率の高い住居や、民間の集合賃貸住宅に多く採用されている。半屋外空間のうちベランダと逆の割合になるのが窓手摺である。「窓手摺」は、「町家」、「長屋」で100%、「市営共同」、「県営共同」、「給与連続」が50%ぐらい、「市営連続」、「給与共同」が20%余り、「洋館戸建」が15%余りの割合が示すように、伝統的住居や集合住宅に見られるが、現代の戸建住宅には見られない。バルコニーは洋館、サンルームは庭付き戸建にというように、特例的なものの採用例は定まっている。このように建築種類に特有な半屋外空間が構成されていることが分かる。

表1 建築種類別にみた半屋外空間の調査数

	庭付戸建	庭無戸建	市営連続	市営共同	県営共同	給与連続	給与共同	洋館戸建	町家	長屋	アパート	マンション	合計
ベランダ	92	27	2	20	21	12	21	2	0	0	20	21	238
バルコニー	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
テラス	15	0	1	0	0	2	0	5	0	0	0	0	23
濡縁	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
サンルーム	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
出窓	13	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	15
窓手摺	0	0	1	20	21	12	6	3	21	28	0	0	112
その他	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	4
合計	127	28	4	40	42	26	27	18	21	28	20	21	402

(調査数)

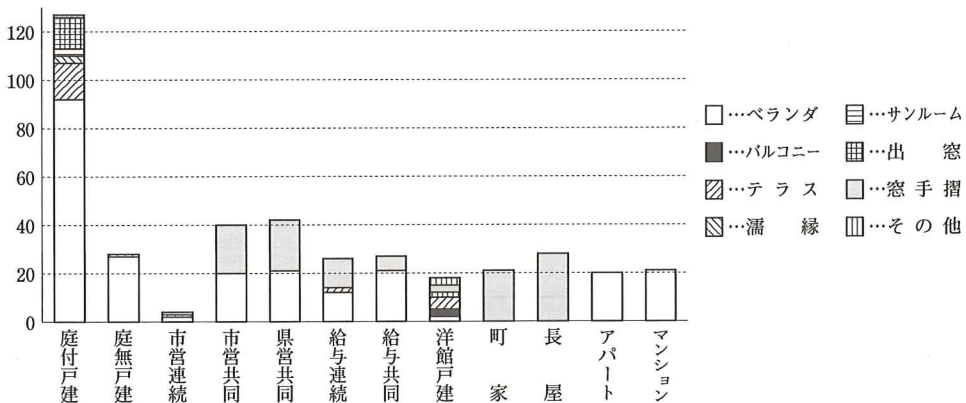


図6 半屋外空間の調査数 (建築種類別)

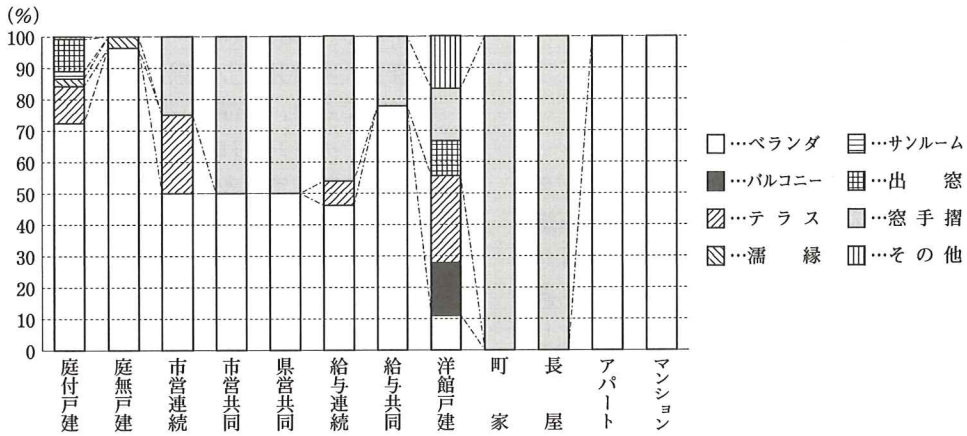


図7 半屋外空間の割合 (建築種類別)

(2) 半屋外空間の大きさ

大きさ別にみると、「1㎡未満」のものは全体の33.6%で一番割合が高い。次いで、「2～3㎡未満」のものが24.6%、「1～2㎡未満」のものが23.5%と、これだけで全体の8割以上を占めている。

「ベランダ」の大きさは平均2.6㎡で面積分布はほぼ放物線を描くが、「窓手摺」は平均0.6㎡で双曲線状になっている。窓手摺は室内から屋外へわずかに張り出すのが特徴である。

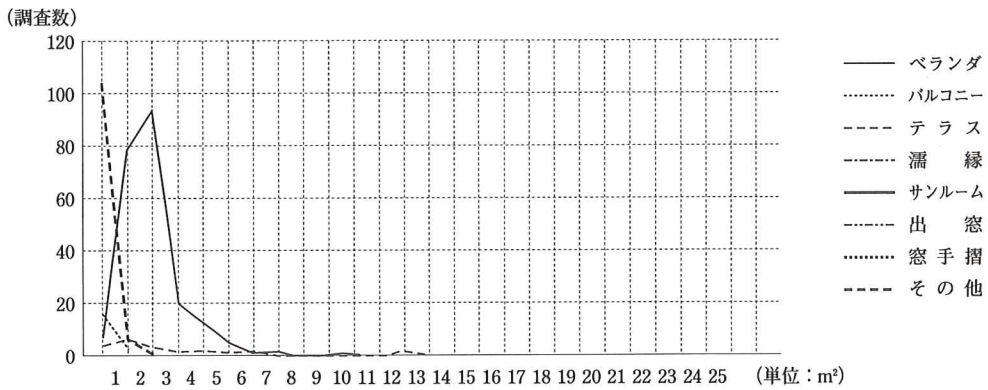


図8 大きさ別にみた半屋外空間の件数

表2 半屋外空間の大きさ (平均値)

(単位:㎡)

	ベランダ	バルコニー	テラス	濡縁	サンルーム	出窓	窓手摺	その他	合計
平均値	2.6	4.5	4.9	1.5	1.1	0.5	0.6	0.5	16.2

更に、利用内容別に半屋外空間の大きさをみると、「洗濯物を干す」広さは2.8㎡、「布団を干す」広さは2.1㎡、「植木・プランター」を置く場所としては2.5㎡の広さとなっている。洗濯物や布団を

干したり、植木・プランターを置く場所として2～3㎡の広さの半屋外空間を利用するという場合が多く、3㎡以上になるとだんだん少なくなっていることが分かる。

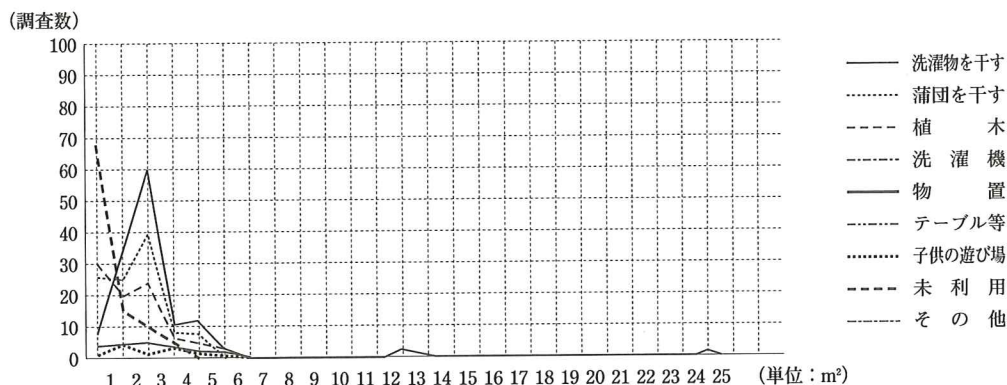


図9 利用内容別にみた半屋外空間の大きさの件数

表3 利用内容別にみた半屋外空間の大きさ (平均値) (単位: ㎡)

	洗濯物を干す	布団を干す	植木	洗濯機	物置	テーブル等	子供の遊び場	未利用	その他	合計
平均値	2.8	2.1	2.5	2.3	4.8	5.3	7.1	2.1	4.7	33.7

(3) 設置階

半屋外空間の設置される高さを階数別にをみると、「2階」に設置される場合が最も多く、全体の63.0%と抜きん出ている。次いで、「3階」、「1階」が10%前後で、「4階」、「地面」が5%前後の順に

なっている。5階以上になるとほとんどない。

これを建築種類別にみると、「庭付き戸建」、「庭無し戸建」、「市営連続」、「給与連続」、「町家」、「長屋」の2階建て住居では、半屋外空間はほとんどが2階に集中している。「共同住宅」の半屋外空間は中層階の方が高層階より多い。

表4 建築種類別にみた半屋外空間の設置階の調査数

	庭付き戸建	庭無し戸建	市営連続	市営共同	県営共同	給与連続	給与共同	洋館戸建	町家	長屋	アパート	マンション	合計
地面	15	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	17
1 F	10	1	1	8	4	0	1	6	3	3	1	0	38
2 F	102	26	3	10	16	24	8	9	18	25	12	0	253
3 F	0	0	0	14	10	0	12	1	0	0	5	2	44
4 F	0	0	0	4	10	0	6	0	0	0	2	6	28
5 F	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	6
6 F	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6	8
屋上	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	5	8
合計	127	28	4	40	42	26	27	18	21	28	20	21	402

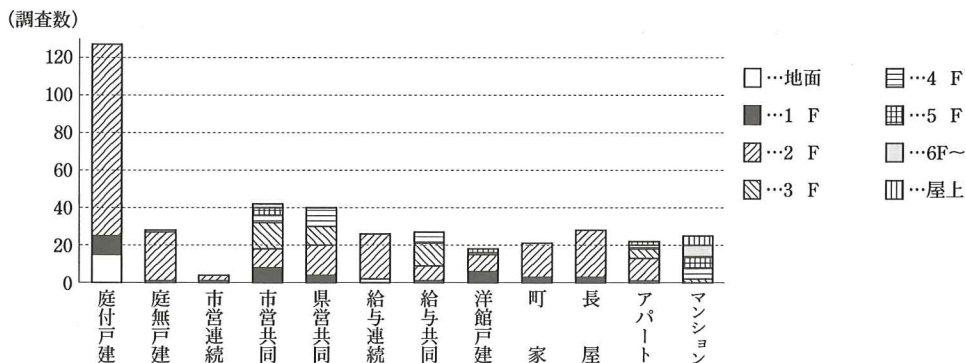


図10 外部空間の設置階 (建築種類別)

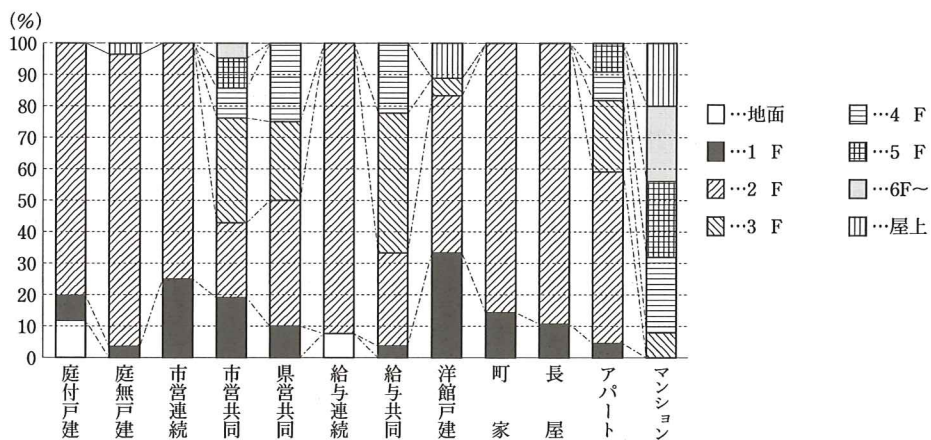


図11 外部空間の設置階の割合 (建築種類別)

(4) 方位

第1類を方位別にみると、「ベランダ」の69.2%は南面にあり、「窓手摺」の34.9%が北面にあることが分かる。また、「ポーチ」は東面か西面に多く、それぞれ30.7%、32.3%を占めている。第2類を方位別にみると、「庭木」は北面に47.3%、西面に42.4%、東面に40.6%と多く、意外にも南面には26.2%と少ないことが分かる。「物干し」は南面に32.9%と集中している。

第3類を方位別にみると、「ポスト」が北面に36.0%と集中しているほかは、項目による片寄りは見られず、よく似た割合である。

このように第1類から第3類までを比較すると、3類→2類→1類となるに従い、南の方位の影響が強まる傾向のあることがうかがえる。また第1類では南面にベランダ、北面に窓手摺、第2類では北面に庭木、南面に物干しの配置が顕著であると分かる。

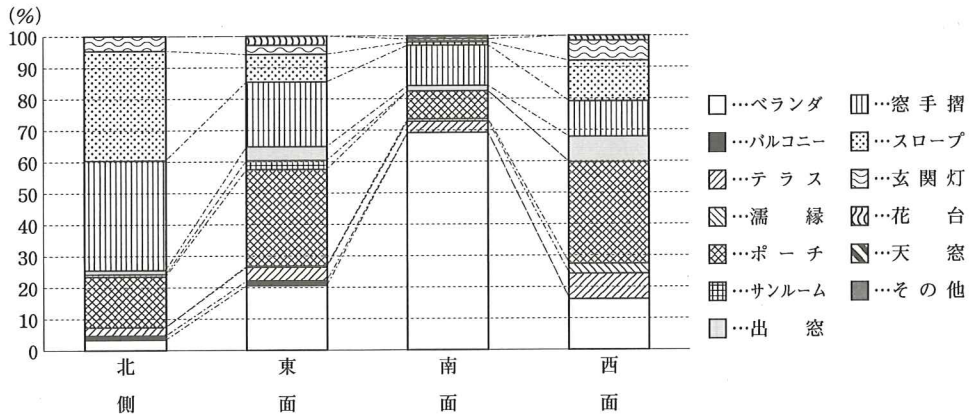


図12 第1類の方位別分布割合

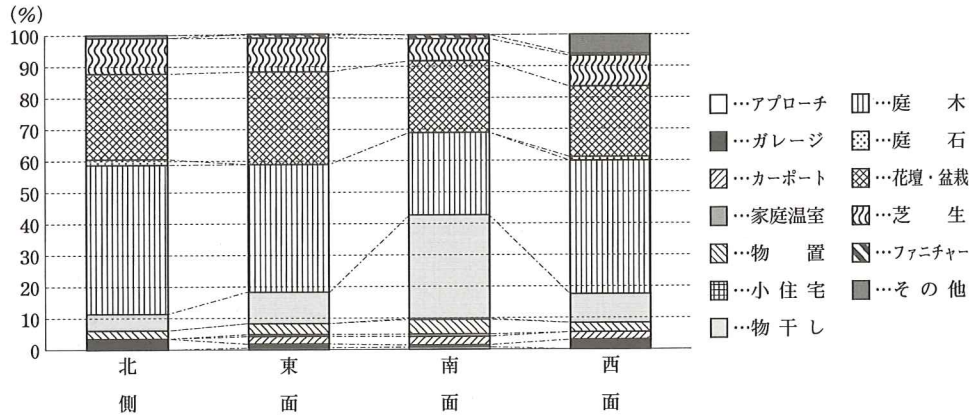


図13 第2類の方位別分布割合

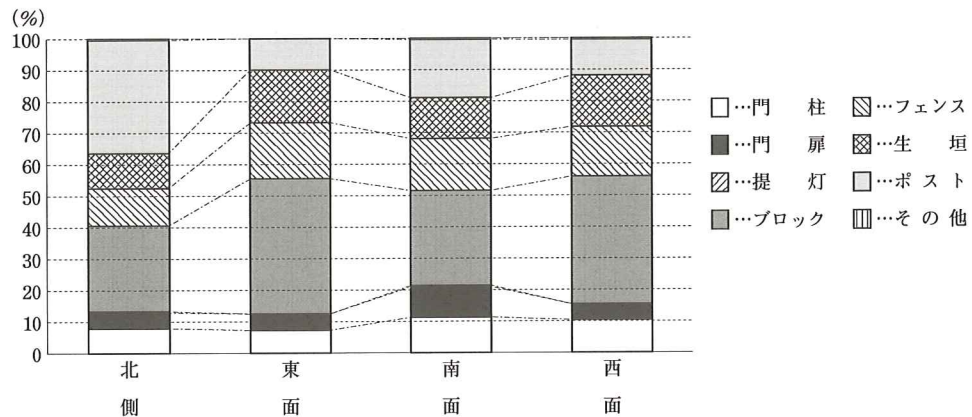


図14 第3類の方位別分布割合

半屋外空間について方位別にみると「南面」に位置する件数が最も多く、全体の51.0%と過半を占めている。次に「南西面」の10.2%、「南東面」の9.5%が多くなっている。一番少ないのは「西面」の4.7%、次は「北西面」の5.0%であった。「西面」は半屋外空間が少なく、壁となっていることが分

かる。

さらに具体的にみると、「ベランダ」は南面に82.9%と最も多く、南東面に57.9%、南西面に56.1%と、南面側に集中している。これに対して、「窓手摺」は北東面に81.0%、北面に80.6%、北西面に55.0%というように北面側に多い。

表5 方位別にみた半屋外空間の調査数

	ベランダ	バルコニー	テラス	濡 縁	サンルーム	出 窓	窓 手 摺	そ の 他	合 計
北	1	0	4	0	0	0	25	1	31
北 東	2	0	0	0	0	2	17	0	21
東	10	1	3	0	3	2	8	0	27
南 東	22	0	1	0	0	2	13	0	38
南	170	0	7	2	0	3	22	1	205
南 西	23	0	5	0	0	0	11	2	41
西	6	0	2	2	0	4	5	0	19
北 西	4	2	1	0	0	2	11	0	20
合 計	238	3	23	4	3	15	112	4	402

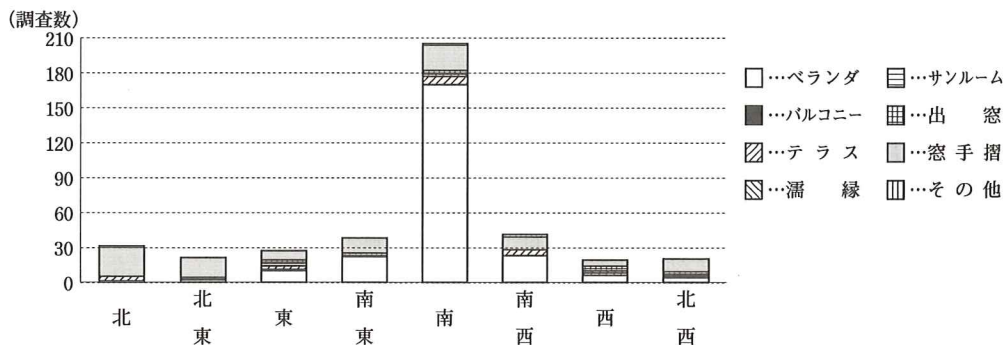


図15 方位別にみた半屋外空間の調査数

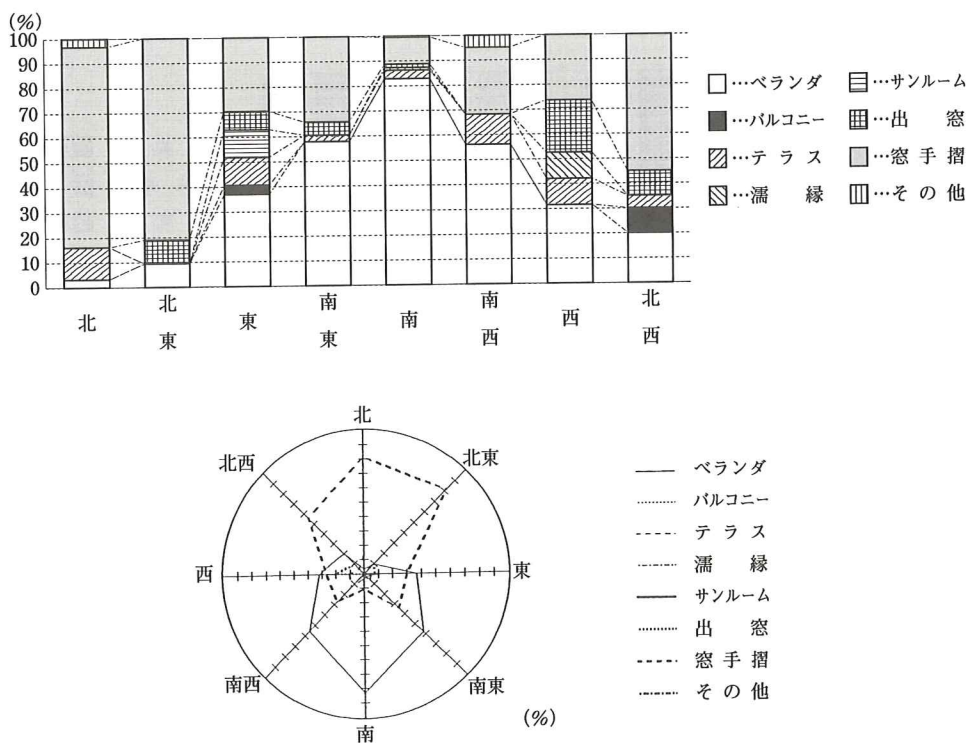


図16 方位別にみた半屋外空間の割合 (下段；レーダーチャート)

半屋外空間の方位を建築種類別にみると、どの住居も南面側の方位が一番多いのに対して、「洋館

戸建」と「町家」は北面に半屋外空間を一番多く設置している。

表6 半屋外空間の方位の調査数 (建築種類別)

	庭付戸建	庭無戸建	市営連続	市営共同	県営共同	給与連続	給与共同	洋館戸建	町家	長屋	アパート	マンション	合計
北	1	0	0	6	6	4	2	5	7	0	0	0	31
北東	7	1	1	4	1	3	0	1	2	0	1	0	21
東	6	3	0	2	5	1	0	2	3	2	2	1	27
南東	21	2	1	2	1	2	1	1	0	2	5	0	38
南	58	17	2	21	28	11	11	2	2	17	9	19	205
南西	22	4	0	2	1	1	1	2	4	1	2	1	41
西	10	0	0	0	0	2	1	1	2	2	1	0	19
北西	2	1	0	3	0	2	3	4	1	4	0	0	20
合計	127	28	4	40	42	26	27	18	21	28	20	21	402

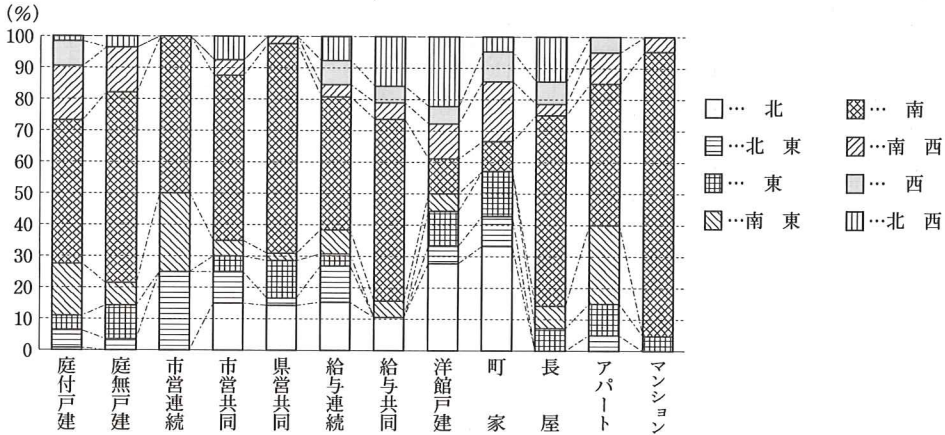


図17 半屋外空間の方位の割合 (建築種類別)

(5) 仕切り窓・扉

住居内部と半屋外空間を仕切る窓・扉別にみると、「掃き出し窓」が73.6%とほとんどを占め、次いで「腰窓」が24.9%となっている。「掃き出し扉」は1.7%と極端に少ない。

建築種類別にみると、庭付き戸建、庭無し戸建、市営連続、市営共同、給与共同、アパート、マンションは70~100%が「掃き出し窓」である中で、県営共同、給与連続、町家、長屋は「掃き出し窓」と「腰窓」がほぼ50%で同じ割合である。また、洋館戸建にだけは「掃き出し扉」がある。

表7 半屋外空間の仕切りの調査数 (建築種類別)

	庭付戸建	庭無し戸建	市営連続	市営共同	県営共同	給与連続	給与共同	洋館戸建	町家	長屋	アパート	マンション	合計
掃き出し窓	114	28	4	28	16	14	21	6	10	14	20	21	296
掃き出し扉	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7
腰窓	13	0	0	12	26	12	6	5	11	14	0	0	99
合計	127	28	4	40	42	26	27	18	21	28	20	21	402

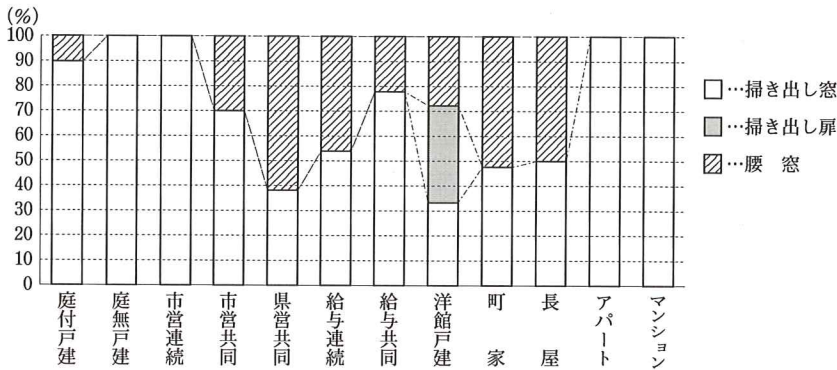


図18 半屋外空間の仕切りの割合 (建築種類別)

(6) 材 料

半屋外空間の材料について複数回答とした。2種類の材料でつくられているものもある。半屋外空間の材料別にみると、一個当たり約1.1種類の材料を使用している。「アルミ」が全体の46.8%と一番高い割合を占める。次いで、「RC」、「鉄」、「木」の順で、それぞれ15.4%、14.7%、11.0%となっている。それに対して、「プラスチック」は1.3%、

「ガラス」は2.9%と少ない。

建築材料別にみると、「木」は洋館戸建、町家、長屋で多くを占めているが、ほかの建築種類ではほとんどない。「RC」は給与連続で46.2%、給与共同で56.7%と、アルミよりも多くの割合を占めている。「アルミ」は庭付き戸建、庭無し戸建、県営共同、アパート、マンションで多くの割合を占めている。

表8 半屋外空間の材料の調査数（建築種類別）

	庭付戸建	庭無し戸建	市営連続	市営共同	県営共同	給与連続	給与共同	洋館戸建	町家	長屋	アパート	マンション	合計
木	3	1	0	0	0	0	0	12	21	13	0	0	50
鉄	0	0	2	19	14	14	9	0	0	11	0	0	67
R C	0	0	2	11	9	12	17	0	0	0	7	12	70
アルミ	98	24	1	13	28	0	4	7	0	4	13	21	213
ガラス	11	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	13
プラスチック	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
その他	16	7	1	0	0	2	0	6	0	0	4	0	36
合計	133	32	7	43	51	26	30	27	21	28	24	33	455

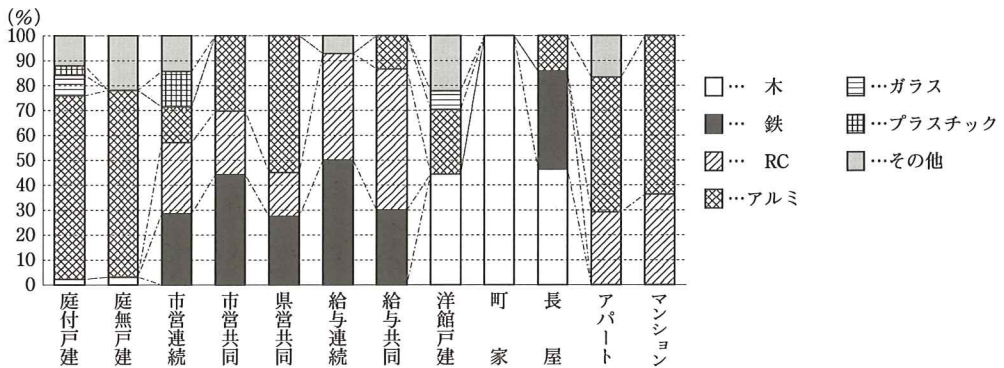


図19 半屋外空間の材料の割合（建築種類別）

(7) 庇

半屋外空間の庇別にみると、全体の78.9%が「庇有り」となっていて、ほとんどの空間に屋根が設置されていることが分かる。庇を建築種類別に分け

てみると、「庇有り」の割合については一戸建て住居が90%以上の高い割合を占めるのに対して、アパート、マンションのような民間建築になると「庇無し」の割合のほうが高くなる。連続住宅や給与住宅のような集合住宅はこの中間的な位置にある。

表9 半屋外空間の庇の調査数（建築種類別）

	庭付戸建	庭無し戸建	市営連続	市営共同	県営共同	給与連続	給与共同	洋館戸建	町家	長屋	アパート	マンション	合計
有	125	25	4	27	26	14	21	16	18	23	8	10	317
無	2	3	0	13	16	12	6	2	3	5	12	11	85
合計	127	28	4	40	42	26	27	18	21	28	20	21	402

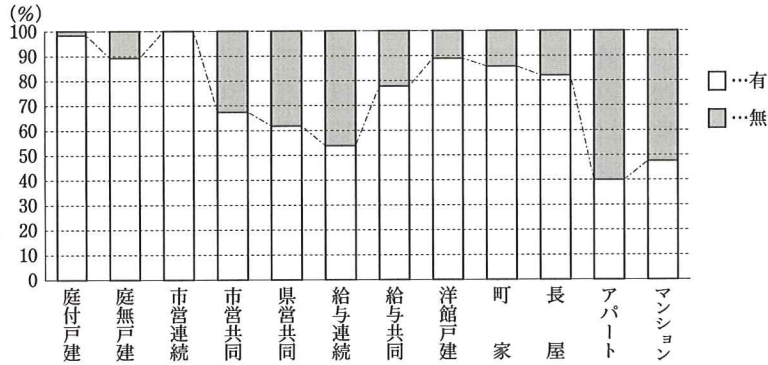


図20 半屋外空間の庇の割合 (建築種類別)

次に、庇の種類別にみると、「庇有り」の中では「瓦屋根」が最も多く、全体の45.8%を占めている。建築種類別にみると、瓦屋根を採用する住宅は庭付き戸建、庭無し戸建、洋館戸建、長屋が多くを占めている。

瓦屋根に次いで多い庇の種類は「上階ベランダ床」で、全体の21.4%となっている。この上階ベ

ランダ床が多くを占めるのは、市営共同、県営共同、給与連続、給与共同の主として RC 造の集合住宅に見られる。

庇の種類の中で、「透明スクリーン」は1.7%と最も少なく、「その他」の6.0%は木やトタン屋根等のことである。

表10 半屋外空間の庇の種類別の調査数 (建築種類別)

	庭付戸建	庭無し戸建	市営連続	市営共同	県営共同	給与連続	給与共同	洋館戸建	町家	長屋	アパート	マンション	合計
庇 無	2	3	0	13	16	12	6	2	3	5	12	11	85
瓦 屋 根	102	25	0	0	0	0	0	16	18	23	0	0	184
波 板	11	0	2	0	0	2	0	0	0	0	1	0	16
スクリーン	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
ベランダ床	0	0	0	20	21	12	21	0	0	0	5	7	86
そ の 他	5	0	2	7	5	0	0	0	0	0	2	3	24
合 計	127	28	4	40	42	26	27	18	21	28	20	21	402

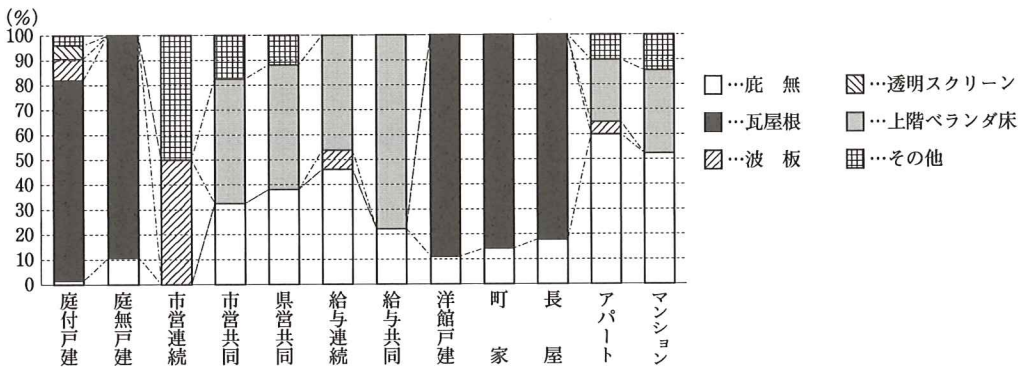


図21 半屋外空間の庇の種類別の割合 (建築種類別)

(8) 利用内容

半屋外空間の利用内容について複数回答で調べた。これによると一個当たりにして約1.3種類の利用内容となっている。「洗濯物を干す」が27.8%、「布団を干す」が21.1%、「植木・プランター」を置く場所としての利用が18.3%となっている。利用内容を建築種類別にみると、ほとんどの住宅で「洗濯物を干す」と「布団を干す」が利用内容にあ

げられている。「植木・プランター」を置く場所としては市営共同で31.0%、県営共同で37.5%、給与共同で29.4%となっている。また、「未利用」は19.6%となり、「テーブル等」を置く場所としての利用や「子供の遊び場」としての利用が少ないことが分かる。「未利用」は洋館戸建、町家、長屋に多く、戸建住宅では庭無しより庭付きのほうが「未利用」の割合が高い。

表11 半屋外空間の利用内容の調査数（建築種類別）

	庭付戸建	庭無戸建	市営連続	市営共同	県営共同	給与連続	給与共同	洋館戸建	町家	長屋	アパート	マンション	合計
洗濯物を干す	44	12	1	15	13	8	14	0	8	7	11	13	146
蒲団を干す	32	11	1	16	10	12	10	2	3	5	3	6	111
植 木	10	7	0	18	18	9	15	0	8	2	0	9	96
洗 濯 機	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	8	0	12
物 置	3	8	0	2	1	1	2	6	0	0	5	0	28
テーブル等	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
遊 び 場	2	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7
未 利 用	35	2	1	3	4	4	5	9	12	16	4	8	103
そ の 他	3	1	0	2	1	0	4	4	0	0	3	0	18
合 計	131	44	6	58	48	35	51	21	31	30	34	36	525

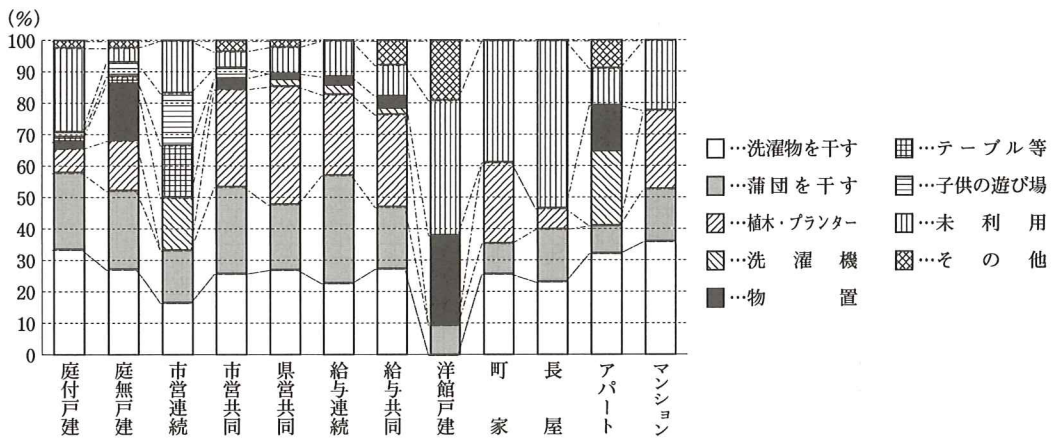


図22 半屋外空間の利用内容の割合（建築種類別）

5. ま と め

住居の半屋外空間はゆとりある住まいにとって大切な空間である。ここでは長崎の住宅実態調査をもとにして、半屋外空間を構成するものの状況を調査票を作成して統計的に把握した。こうして整理した結果、次のようにまとめられた。

- 1) 半屋外空間を構成する主要なものとしては、住宅外周りではベランダ、窓手摺、ポーチ、住宅外周りから敷地内全体では庭木、花壇・植栽、物干し、敷地境界線ではブロック、ポスト、フェンスがあげられた。
- 2) 住宅外周りの空間構成では、ベランダは南面に多く、窓手摺は北面に多かった。敷地内では植木・盆栽が北面に多かった。このように半屋外空間は南向きか北向きかにより大きく影響を受け、空間の表情が方位により異なることが指摘できる。平均面積は、ベランダが 2.6m^2 、手摺が 0.6m^2 、植木・プランターが 2.5m^2 である。洗濯物・布団を干すのが $2.1\sim 2.8\text{m}^2$ でベランダの面積にほぼ一致した広さとなっている。
- 3) ベランダのある住宅は、多い順に上げると、アパート、マンションが100%、庭無し戸建が97%、庭付き戸建が72%、共同住宅が50%、一方で手摺のある住宅は町家、長屋が100%、共同住宅が50%という傾向がみられた。近代的な住居と伝統的な住居との違いが半屋外空間に反映して、景観を構成していることが分かった。

なお、この論文は平成4年度卒業研究「住居の半屋外空間についての研究」(龍典子)で討議研究した内容をもとにまとめたものである。ここに謝して記します。

参考文献

- 1) 「エクステリアの視点 ～諸分野の有機的調和に向けて～」建築知識別冊, 1982年9月15日, 建知出版
- 2) 平成4年度卒業研究「住居の半屋外空間につい

ての研究 ～長崎の住居をケーススタディとして」龍典子, 長崎総合科学大学建築学科村田ゼミナール論文, 1993年2月